

赤見城跡(佐野市)

築城年代:安元元年(1175年)、築城者:足利俊綱

ここが赤見城跡/正面に標柱等がある/左手は赤見城保育園の園舎



正面は東側の土塁/上に登れるように階段がある/北西方向を見たところ





赤見城跡

佐野市指定文化財

赤見城跡

縄張図のようだが良く分からない



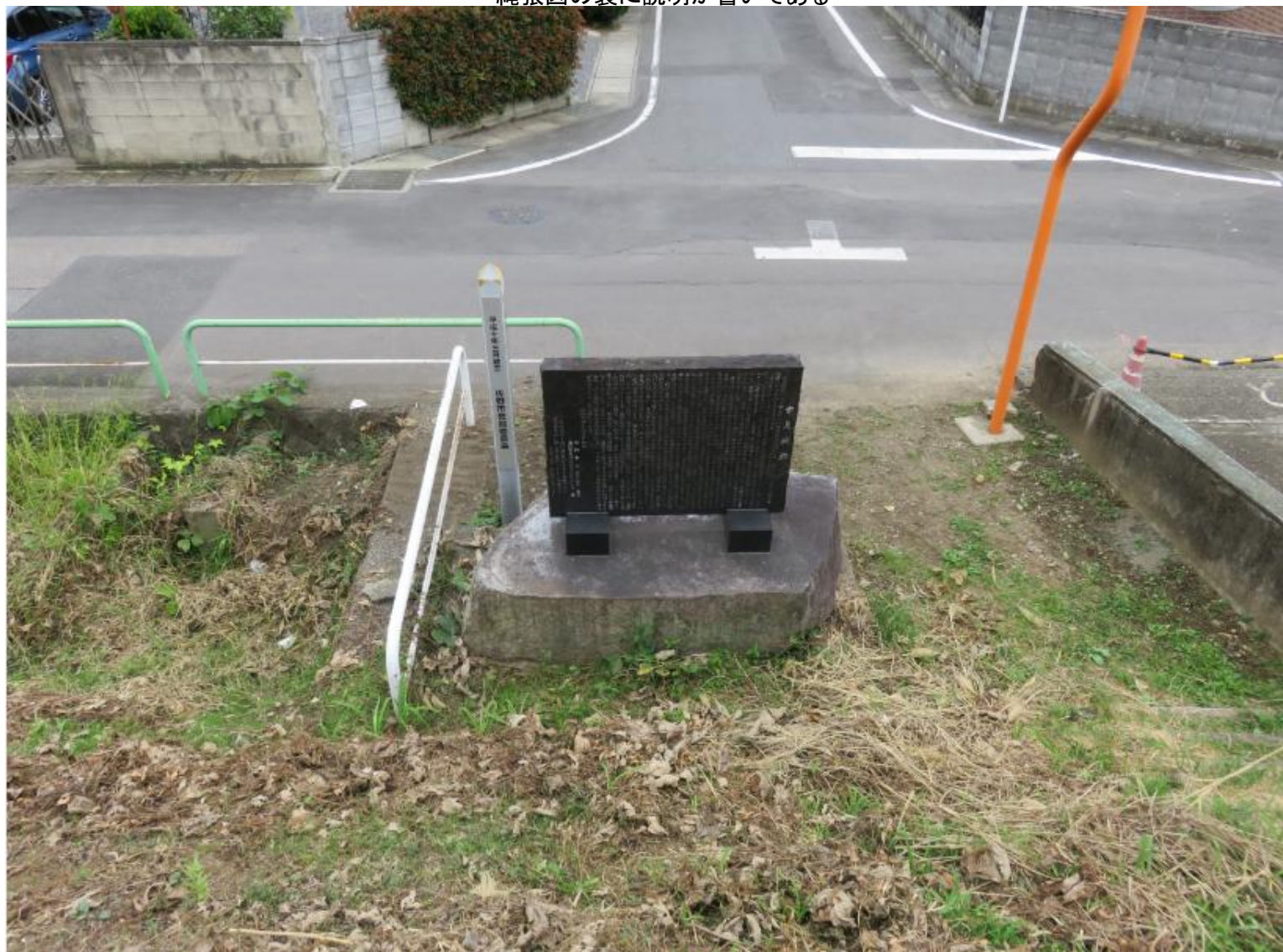
本丸を中心として、周囲には南東に二の丸、南に三の丸、北に北の丸、西に西の丸があったらしい



さて、土塁に登ってみよう



縄張図の裏に説明が書いてある



赤見城跡

赤見城跡（一名町屋城）は中世城館遺構として、最も立派な原形を留める。佐野市の代表的文化遺産である。

任承古記録によれば、藤原秀郷の子孫足利俊綱が安元元年（一一六一）に築城し、治承二年（一一八二）に居城したと伝えられる。俊綱その子忠綱は領地のこととして新田義重と争い、平重盛に頼ったので、そのあと源頼朝と対立した。忠綱は殺害され、忠綱もその後飛駒で討たれ足利朝の軍勢に攻められ、俊綱はその家佐野成俊・有綱はそのあとを嗣いで佐野氏が興隆することになる。

赤見城は佐野基綱を頼って落ちのびたと称する源義仲の子、岩崎長基の所領となつて、その家臣戸賀崎義宗・荒川満次・戸賀崎清氏・荒川氏重・同詮長・赤見仲村・同義重等が建仁元年（一一二〇）から約二百年間ここに居城したといわれる。その後応永十二年（一四〇五）から関東管領足利持氏の支配を受け、家臣が在城した。文明三年（一四七一）足利成氏の家臣南式部大輔父子が赤見城を守つていたが、上杉家の家臣長尾景信に攻められ落城した。そのあと赤見城には永正十二年（一五一五）から赤見六郎左衛門が居城し、約三十年間その勢力を保持した。佐野盛綱・基綱の代になり、赤見氏は佐野氏と対立した。佐野氏は不意に赤見城を夜襲したため、赤見父子は常陸に母系を頼って逃れた。佐野昌綱の代になり和睦し、佐野武士団の有力な一員となつた。この間赤見城は、唐澤山城の重要な支城として隣国足利の長尾氏との攻防の拠点となつた。佐野宗綱戦死のあと、北条氏忠が佐野氏忠として尾形山に迎えられ、佐野庄は大部分北条の勢力下におかれた時、赤見氏は岩崎氏などとともに反北条氏の中心的役割を果し、天徳寺了伯と関係し秀吉と結び佐野家再興の原動力となり、赤見城がその根拠地となつた。徳川政権の成立とともに、慶長十八年（一六一一）佐野信吉の改易により、四百余年の興亡の歴史を伝えた赤見城も廃城となつた。十六世紀末の記録（唐澤三里四方出張改め）や口伝によれば赤見城は東西約四八〇メートル、南北約三八〇メートルの規模をもち、この本丸を囲んで東に二の丸、南に三の丸、西に西の丸、東北に北の丸を配置し、いづれも土塁と濠で囲まれていた。東西の方に二つの捨郭（捨曲輪）があり、西南は大湿地帯であったという。東北より出流川、西北より駒場川の水を最大限に利用したもので、その規模は現在の町屋全域に当り、その中に多くの武士屋敷や防禦陣地が構築されていたと考えられる。

昭和五十年四月十四日

佐野市長 鈴木達三 建立
佐野市文化財保護審議会 選

この土塁・濠は旧土地所有者青木昭実氏が、

保育園建設に際し市に寄附されたものである。
設計・施工 両毛石材センター

土塁の内側が本丸で、現在は赤見城保育園の園庭となっている



土塁は前方で左手(西方向)へ折れている



園庭は土塁で取り囲まれている



ここが北東の隅



これは北東の隅から西方向を見たところ



これは振り返って進んで来た南方向を見たところ



前方に土塁の北西隅が見える/手前に祠がある/右手下に水溜りがある



そこで左手を見たところ/土塁の下は水堀で正面は土橋のようにになっている/左手はもう一重土塁がある



その左手はこんな塩梅



右手はこんな感じ



さて、土塁は北西隅で西方向に折れている



これが北西隅付近にある祠



これは北西隅付近で北側の水堀を見下ろしたところ



これは北西隅で南東方向を見たところ



北西隅で東方向を見たところ



これは北西隅で南方向を見たところ



さて、この西側の土塁の上を進んでみよう/左手が本丸/右手が水堀でその外側にもう一重土塁がある/所謂、二重土塁



西側の土塁の上を進むと前方で左手(東方向)に折れている/その先は途切れている(破壊されてしまっている)



そこで左手(本丸)を見たところ



これは右手(西方向)を見たところ/水堀の向こうに二重目の土塁が見える



さて、ここが南西隅



南西隅で東方向を見たところ/この先の土塁は赤見城保育園の園舎で破壊されてしまっている



これはそこから北方向を見たところ



さて、これは標柱の所に戻って右手(北方向)を見たところ/この道路も水堀跡か



これは北東側から水堀(跡)を見たところ



これはそこで右手(西方向)を見たところ



近寄ってみる/左手が一重目の土塁で水堀に土橋状の渡りがあり、土塁を貫通した土管を潜ると園庭のある本丸に繋がっている



正面が二重目の土塁/その右手の前方を見るとまた別の土塁があるようだ



これは水堀の土橋状の渡りと園庭のある本丸へと土塁を貫通した土管を見たところ



これは二重土塁間の水堀を見たところ/前方で左手(南方向)に折れている



振り返って東方向を見たところ



これは土管を潜って左手を見たところ



これは右手を見たところ



これが土管



さて、二重目の土塁の右手を進んでみよう/前方はやはりもう一つの土塁のようだ



どうもこの部分は三重の土塁のようになっている



これが三重目の土塁



これはその三重目の土塁の右手を見たところ



同じく左手を見たところ/前方で二重目の土塁と一体化している



これはそこで南方向を見たところで正面が二重目の土塁/その向こうが水堀



さて、これは二重目の土塁の北西隅で南方向を見たところ/左手が本丸



左手の水堀を見下ろしたところ



土塁上を南方向に進んでみよう



これは左手の本丸方向(東方向)を見たところ



更に進むと土塁は前方で左手に折れて下がっている



こんな感じで左手に下がって行っている



そこで左手を見たところ/水堀は前方(東方向)に折れて続いているが/左手の建物は赤見城保育園の園舎



これはその土塁の南西隅から北東方向を見たところ/正面は一重目の土塁の南西隅



これは堀底に下りて北方向を見たところ



これは二重目の土塁の西側で南側から北方向を見たところ/この排水溝も外堀の名残であろうか



これは二重目の土塁上で南側から北方向を見たところ



これが本丸南東側にある赤見城保育園の園舎



園舎の奥に南側の土塁が見える/その左手は水堀が見える



参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/004tochigi/104akami/akami.html>

<http://yogoazusa.my.coocan.jp/sanosi.htm#akami>

<http://www.asahi-net.or.jp/~qb2t-nkns/akami.htm>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/shimotsuke/akami-jyo/>

<http://tochigi-burg.com/akami.htm>

<http://tutinosiro.blog83.fc2.com/blog-entry-460.html>

<http://blog.goo.ne.jp/hanako1033/e/677221a7c3399712f18333451f6d4b72>

https://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/58083383.html?_yvsp=6LWk6KaL5Z%2BO6Leh

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/joukan-totigi/akami-jou-sano-totigi/akami-jou-sano-totigi.html>

<http://beccan.blog56.fc2.com/blog-entry-3914.html>

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/09_Totigi/akami/index.html

<http://fanblogs.jp/shirononagori/archive/138/0>

<http://blue.ap.teacup.com/yamagayuhu/2633.html>

<http://jp-castles.cocolog-nifty.com/blog/2012/11/post-3634.html>

<http://kakikakikaki.blog.so-net.ne.jp/2016-10-30-4>

http://castle.slowstandard.com/10kanto/16tochigi/post_604.html

